



造形大プロダクトデザイン  
学科の授業風景



新校舎イメージ

### Pick Up 3 「テクノロジー×デザイン」

造形大では今春、2学科を統合しデザイン学科を新設。テクノロジーとの融合を目指す新たなデザイン教育を始めます。令和6年秋頃、新校舎が完成予定です。

### 造形大が挑む、次世代 デザイナーの育成

く手応えを感じていますが、もっとスピードアップしないとだめですね。  
佐々木 D Xは実現するのに時間がかかりますからね。小さなスタートでいいと思うんです。少しずつやり方を変えていくうちに周りの人たちの発想も変わっていきます。それを積み重ねていくことが大事だと思います。

佐々木 やはりこれからの時代の変化に対応するには、デジタルを扱う能力が必要です。そこで、本学でもデジタルを取り入れ、幅広くデザインの知識や考え方を学ぶ「デザイン学科」③を4月に新設します。こういった未来を見据えて人材を育てる動きは、長岡の「米百俵」の精神にも通じると感じています。

市長 未来への投資ですね。そのほか新学科での学びの特徴は何でしょう。  
佐々木 世の中が変化し、求められるものが多様化してい

山田 そもそもD Xって何なんでしょう。  
佐々木 「人がやっていたことをデジタルが代わりにやる」という印象がありますが、それは「I T化」。D Xはデジタル技術を活用しながら、仕事のやり方を根本的に変え、新しい価値をつくることです。I Tはあくまで手段なので、まずはお客さまのためになる

ことや働く人にとってより良いやり方を考えることがD Xの第一歩です。  
市長 デジタルで組織や業務を変革し、パフォーマンスを上げていく。「ながおかペイ」11ページへの導入や、楽天との協定による市内企業の商品を販売するE Cサイトの立ち上げ、モノづくり企業へのD X支援②などは、反響も大き

佐々木 市民の目線に立つことは大事ですよね。本学でも4大学1高専で連携し、長岡の歴史から産業まで幅広く学ぶ「長岡学」をこの春、開講します。本学の学生は8割が県外出身。対象物をよく知らなければ、良いデザインは生まれません。まずは長岡のことを知り、長岡にどんな価値を提供できるか考えられるようになってほしいです。

る昨今。相手が望んでいるものをくみ取って形にする力が求められています。そこで、本学でデザインの基礎として教えてきた「デザイン思考」④を、より重視したカリキュラムになっています。  
市長 本学に必要なもの、便利なもの、生活を豊かにしてくれる新しいものは何か。それを見つけてのがデザイン思考ですね。ユーザーの目線、市民の目線で。

山田 今後、イノベーションをさらに進化させていくために必要なことは何でしょう。  
佐々木 オープンな場で年齢や性別、国籍を問わず、さまざまな価値観を持った人が自由に意見を言える環境が必要だと思います。言いたいこと、やりたいことを否定されない雰囲気の中で、意見を持ち寄って試行錯誤することからイノベーションは生まれます。  
市長 まさに多様性ですね。

### 多様性でイノベーションの進化へ

佐々木 はい。中でも今の日本です求められるのが「女性」の視点。働く人も商品を買う人も半分は女性です。上場企業の中には役員の一定数が女性になるようルール化しているところもあります。これまで男性ばかりだった会議や集団に女性が入ると、これまでの「当たり前」を見直すきっかけになります。実際に女性がいると議論が活発になると感じています。

市長 市も昨年の4月から女性活躍推進担当部長を新設し、女性が力を発揮できる環境づくりを進めています。  
佐々木 私も市のセミナー⑤に講師として参加しました。長岡の女性は積極的で元気な人が多い印象を受けたので、期待できますね。

市長 外国人材の活用についてはいかがですか。長岡には多くの留学生がいて、市内企業でのインターンシップ（仕事の体験）や就職を推進しているのですが。  
佐々木 地域産業の活性化につながると思います。私はこれまで30カ国以上の人たちと一緒に仕事をして、視野が広がり、発想に刺激を受けました。さまざまな価値観の人が集まったときは、相手のことを自分の思い込みで決めつけないことが大切。合意形成は大変ですが、その分大きな推進力が生まれますよ。

「オープンに誰もが自由に意見できる」

# 多様性こそが鍵

— 佐々木 順子



### Pick Up 5 女性活躍推進セミナー

活動の幅を広げたい女性が、さまざまな分野で学びを深める連続講座「スマートキャリアプログラム」。